

開業奮闘記



医療法人社団 翔輝会
水本整形外科・
いわした内科

熊本県熊本市



院長 水本 圭彦氏

スポーツ整形を軸に 地域に貢献できる医療提供を目指す

アスリートをメンタル面でも
支えられる整形外科を目指し開業。

Q 開業のきっかけを
教えてください。

水本 中学生のころからバドミントンを始め、今でも続けています。若いころから、県内トップを走ってきたこともあり、けがをすることも多くありました。治療が長引けば、試合に出られないストレスや不安もたまっていきます。その経験から、適切にけがを治し、早く競技に復帰できるような整形外科医を目指すようになりました。

一貫してスポーツ整形に関わってきており、勤務医時代は、午前は外来、午後は手術という毎日を送っていました。バドミントンを中心とするトップアスリートたちが、けがから復帰する過程に深く携わることで、仕事に充実感を持っていました。ずっと手術ができる場にいたいという思いもあったのですが、義父から「一緒にやろう」と誘われ、地域に根付いた医

療提供と孝行の意味もあり、整形外科を開業することにしました。

Q 開業にあたり、
苦労はありましたか。

水本 2013年に開業すると決めてからは、早かったですね。義父は、現在地で内科の診療所を経営していました。整形外科の開業にあたり、2階部分を整形外科の診察室とリハビリ室に改築することにしました。総合メディカルさんには、改築時の設計や機器の選定段階から関わっていただき、私の思いを汲んでいただきました。

スタッフも、良い人たちに集まってもらえたと実感しています。面接の際、私は応募者の目を見て判断し、純粹だなと感じた人や、話してみてもあたりの良い人だと感じた人を採用しました。2014年8月の開業から1年以上が経ちましたが、採用した人は継続して勤務していますし、面接の際に感じた印象は変わらないままです。良い人たちに支えてもらったため、



明るく、やる気のあるスタッフ。

開業の苦労は感じませんでした。スタッフとは、「最初の一人の患者さんも、最後の一人の患者さんも、同じ気持ちで接すること」を基本方針としています。スタッフ同士でも話し合いの場を持ち、自主性を持って仕事に取り組んでくれています。



1日約100人の外来患者さんが受診している。



常に笑顔をやさす患者さんに対応する受付スタッフ。



診療時も、患者さんの話をじっくり聞くよう心がけている。

患者さんと心理的、物理的に
近い距離で寄り添うクリニック。

Q クリニックの特色を
教えてください。

水本 当院は、私の勤務医時代の反省を生かした造りにしています。大きな病院は診察室とリハビリ室が離れているため、リハビリ中の患者さんの話を聞いて、治療計画を臨機応変に変えることが難しいと感じていました。当時は、外来が終わってリハビリ室に行き、患者さんの様子をセラピストから聞き取り、次の受診時に方針を変更するという流れでした。これでは、リハビリに数日間のタイムロスが生ま